

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

区分	一般料金	団体料金(30名以上)
大人(高校生以上)	380円	300円
大人(65歳以上)	190円	150円
子供(小・中学生、未就学児)	無料	無料

年間パスポート券(1年間有効)

区分	料金
大人(高校生以上)	1,900円
大人(65歳以上)	950円

※65歳以上の方は、健康保険証など年齢が証明できるものをご提示ください。

入館無料者

下記の方は入館料無料です。※ただし窓口、手帳等の提示のない場合は有料となります。

- ・身体障害者手帳及び療育手帳をお持ちの方と、その介護者1名
- ・障害者(児)施設に通所している方と、その介護者1名
- ・ひとり親家庭の世帯員
- ・被爆者健康手帳をお持ちの被爆者及びその介護者1名
- ・生活保護受給者手帳をお持ちの被保護者
- ・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名
- ・介護保険の要支援・要介護認定者とその介護者1名
- ・定疾患医療受給者票をお持ちの方とその介護者1名
- ・カフェ「Café Oasis」と売店「ちどり屋」のみの利用者

休館日

月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)  
年末年始(12月28日～1月1日)  
※施設管理のため上記以外に休館することがあります。

レンタル

双眼鏡(館内無料・野外貸出有料)、貸出DVD(無料)  
車椅子・ベビーカー(無料)

施設

ベビールーム、多目的トイレ(車椅子・オストメイト・おむつ交換台)  
飲食コーナー、図書閲覧コーナー、レクチャールーム、カフェ、売店、飲料自動販売機

施設

※ペット同伴のご入館はご遠慮ください。  
※オートバイ、自転車でご園内に乗り入れることはできません。



習志野市長  
宮本 泰介  
Narashino City  
習志野市

谷津干潟は東京湾の埋め立てが進む中、習志野市民をはじめ、多くの人々の努力によって奇跡的に残され、1993年にラムサール条約の登録湿地になりました。1997年に習志野市は6月10日を「谷津干潟の日」と制定し、市民の皆様と共に力を合わせ、都市と自然との共生を図ることを誓いました。世界的にも貴重な自然財産を守るとともに、ぜひ観察センターで自然に触れ合い、干潟の大切さや干潟の生物の多様性を実感していただき、さまざまな活躍の原動力として関心をお寄せいただくことを願っております。

電車・バス

■京成線利用の場合  
谷津駅から徒歩約30分  
■JR京葉線利用の場合  
新習志野駅から徒歩約20分  
南船橋駅から徒歩約20分

■JR総武線利用の場合  
津田沼駅南口バスのりばから「谷津干潟行き」に乗り車。  
終点「谷津干潟」で下車、徒歩約15分  
津田沼駅南口バスのりばから「新習志野駅行き」に乗り車。  
「津田沼高校」で下車、徒歩約10分

自動車

■東関東自動車道利用の場合  
「谷津船橋IC」から約1分  
■京葉道路利用の場合  
「花輪IC」から約10分  
※駐車場は国道357号下り車線からのみ出入りできます。  
※カーナビで検索すると、観察センターの正門入口に案内されることがあります。正門入口に駐車場はございませんのでご注意ください。

駐車場

料金：無料 時間：8:30～17:30 場所：国道357号下り車線沿い  
台数：普通車100台、大型バス5台(要予約)

駐輪場

料金：無料 時間：8:30～17:00 場所：正門横  
※オートバイ、自転車でご園内に乗り入れることはできません。

お問い合わせ

習志野市谷津干潟自然観察センター  
〒275-0025 千葉県習志野市秋津 5-1-1  
TEL: 047-454-8416 FAX: 047-452-2494  
http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/



編集・発行：谷津干潟ワイルドコース・パートナーズ(指定管理者)  
・代表企業：西武造園株式会社 ・構成員：NPO法人生態教育センター ・構成員：林造園土木株式会社  
Ver2 発行日：2021年4月

ひろい空、移ろいゆく干潟の時間

習志野市谷津干潟  
自然観察センター



空と干潟で深呼吸...

開放感のある観察センター内は一面ガラス張り。谷津干潟を一望できます。広い空と変わりゆく干潟を眺めていると、心も身体もリラックスできます。



着ぐるみへんしんコーナー

小さなお子さまが楽しめるキッズコーナーは手作りのおもちゃがいっぱい。鳥の帽子や着ぐるみ、ひがたつりばり遊びながら干潟の生きものに親しめます。



特別展示は季節にあわせて開催

自然や生きものを題材にした作品展をはじめ、ポスター展示や生きものの水槽を展示する「夏休み生きもの展」、市民の皆さんによる「みんなの谷津干潟展」などの作品展を開催しています。



「手ぶらでバードウォッチング」できますよ!

干潟のお散歩のおともに野外で使える双眼鏡と野鳥図鑑を有料貸出しています。「谷津干潟の周りを歩きながらバードウォッチングしてみたい」という方にオススメ。



工作コーナー

どなたでも楽しめる憩いの場「つくろう&あそぼうコーナー」は、季節の自然や生きものをテーマにした工作やぬり絵などを無料で体験できます。また、ミニデコイやブローチ作りなど有料の工作体験も土産作りも楽しめます。



レンジャーがご案内します!

観察センターには、谷津干潟の自然に詳しいレンジャーが常駐しています。双眼鏡や望遠鏡の使い方、干潟観察のポイント、季節の見どころをご案内します。レンジャーが行うプログラムに参加して、一緒に観察を楽しみましょう。

平日	館内ガイドウォーク 11:00～14:00～(所要時間30分)
土・日・祝日	ミニ観察会 13:30～14:30 季節のあ～と 14:45～15:30

予約はいらないよ!

実際に干潟に入れるイベント開催

干潟の生きものが活発になる季節に合わせて、干潟に入って生きものを探すイベントや研修を開催しています。レンジャーの案内で干潟の生きものをたくさん見つけましょう。



生きものふれあいコーナー

季節に合わせて、カニやオタマジャクシなどの生きものにふれあえるコーナーを設置しています。生きもののさわり方、観察の仕方などをレンジャーがご案内します。



ゴミ拾いで干潟を守る

ゴミ拾いは子どもから大人まで誰でも参加できる干潟を守る活動です。毎年6月と2月に行う干潟のゴミ拾いイベントに参加して、谷津干潟をみんなで守りましょう。



観察センターが目指す「3つのつながり」

ラムサール条約登録湿地の谷津干潟は、日本を代表する豊かな湿地・自然です。国内に限らずアジアおよび世界の貴重な財産であり、観察センターでは以下の取り組みを行っています。

- ①人と自然のつながり  
東京湾では干潟の大規模な開発が進み、人と自然の関係が希薄になりました。しかし、人が生きていくために自然は不可欠です。観察センターでは、残された谷津干潟とこれまでに干潟と人が共生してきた歴史を通じてその大切さを伝えていきます。
- ②自然のつながり  
谷津干潟に生息する水鳥と多様な生きものの魅力やその生態を通じて、人の想像を超え、自然の仕組みの理解が深まり、広がるよう努めています。
- ③人と人のつながり  
谷津干潟を守るために大切なのは、人と人のコミュニケーションと人同士のつながりです。観察センターではその専門家としてレンジャーを配置し、市民や行政、学校、企業など全ての関係者との協働を実践しています。

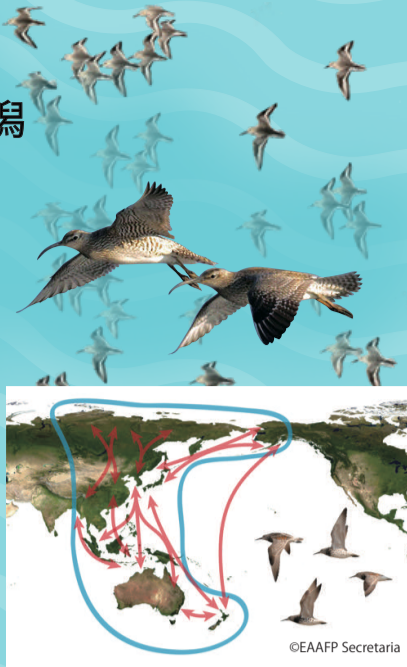
## 東京湾とつながっている干潟

谷津干潟は東京湾奥部の千葉県習志野市にある、埋め立て地に囲まれた面積約40ヘクタールの長方形の干潟です。東京から車で約40分ほどのところにあり、周囲は住宅地や道路に囲まれています。干潟の南側にある2本の水路によって、その先にある東京湾とつながっています。

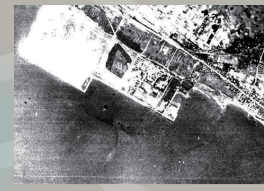


## 国境をこえて つながる谷津干潟

シギ・チドリの間には、谷津干潟を中継して、シベリアなど北極圏のツンドラで子育てをし、東南アジアやオーストラリアの干潟で冬を越すために片道1万キロ以上を移動するものがあります。一例として、2017年9月に谷津干潟で「H06」という記号入りの標識を脚に付けたシギの仲間トウネンが、同年12月に5,840km離れたオーストラリア・ケアンズ北部 Yorkeys Knob の湿地で観察されました。国境をこえて旅をする水鳥によって、わずか40ヘクタールしかない谷津干潟が遠い外国とつながっていることが証明されています。



## 開発から守られた奇跡の干潟



1947年(昭和22年)



1971年(昭和46年)



1974年(昭和49年)

高度経済成長の時代を迎えるまで、習志野市の谷津海岸の干潟は製塩や採貝など人々の生活の基盤でした。また、谷津遊園による観光やレクリエーションの場として多くの人に親しまれました。1971年、干潟の大規模な埋め立てが計画され、市民による干潟の保護運動が始まりましたが、埋め立ては阻止できず進んでいきました。保護運動に関わる人たちは、国有地であったため埋め立てを免れた干潟を「谷津干潟」と名づけました。この頃、多くの水鳥が谷津干潟と周囲の埋め立て地に集まり、その重要性が知られるようになりました。17年の歳月をかけた保護運動は実を結び、1988年に谷津干潟は国の鳥獣保護区となります。1993年に谷津干潟は北海道の釧路市で開催された締約国会議でラムサール条約に登録され、翌年に観察センターがオープンしました。



1995年(平成7年)

## 潮の満ち引きで変わる環境

満潮

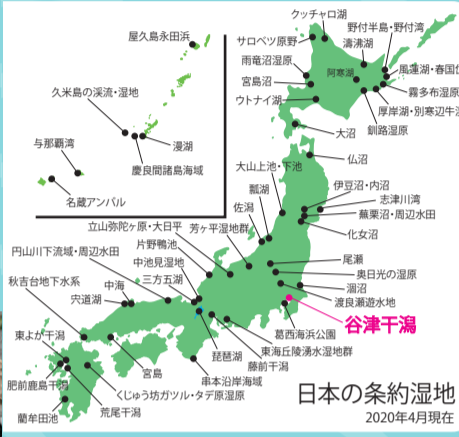


干潮



潮の満ち引きで東京湾から海水が谷津干潟に入りにくくなることによって、豊かな自然環境が育まれています。多くの生きものが潮の満ち引きに合わせてくまっています。

## 世界に認められたラムサール条約湿地



日本の条約湿地 2020年4月現在

谷津干潟は、シギやチドリなど多くの水鳥の重要な生息地であることから、1993年6月10日に国内の干潟として最初にラムサール条約に登録されました。干潟は、水鳥を含む多様な生物にすみ場を提供し、水質浄化などの働きがあります。同条約はこれらを守り、賢く利用することを目的としています。

## 観察センターに集う人の輪

観察センターでは、谷津干潟の将来を担う小・中学生の「谷津干潟ジュニアレンジャー」や高校生・大学生世代の「谷津干潟ユース」をはじめ、「観察センターボランティア」や「谷津干潟の日運営委員会」、企業の社会貢献活動など様々な世代が活躍する場をつくり、谷津干潟を守る人の輪を広げています。



谷津干潟ジュニアレンジャー

谷津干潟ユース

観察センターボランティア

観察センター

谷津干潟の日運営委員会

CSR活動

## 命を育む干潟

谷津干潟にはプランクトン、エビ、カニ、貝、ゴカイ、魚など数多くの生きものが生息しています。これらの生きものは干潟で採食する渡り鳥のシギやチドリ、カモの仲間だけでなく、子育てをする鳥や、一年を通して見られるサギやウの仲間にとっても重要な食糧となつています。



## 湿地提携

習志野市とオーストラリアのクィーンズランド州ブリスベン市は、渡り鳥の保護と湿地保全を目的に、湿地提携に関する協定を1998年2月25日に締結しました。ブリスベン市はモートン湾ブンドル湿地を擁しており、観察センターはブンドル湿地環境センターやクィーンズランド渉禽類研究会と情報交換を行い、毎年相互訪問を繰り返し交流を重ねています。



## 四季折々の自然を たのしもう

一周約3.5kmのコースは、見どころいっぱい!

自然豊かな谷津干潟の周囲は谷津干潟公園として遊歩道が整備され、干潟が眺められるお散歩コースです。鳥の声に耳をかたむけ、草花や樹木、干潟の生きものなど豊かな自然の移り変わりを感じながら散策できます。



東京湾とつながる水路の出入り口付近では潮の流れとともにやってくるボラやアカエイ、クラゲなど海の生きものと出会えます。



センターゾーンの芝生広場は春から秋にかけてチョウやトンボがとびまわり、セミやバッタなども多く見られ昆虫探しを楽しめます。



公園内でミツバチを飼育しています。ミツバチの特性を活かした環境教育プログラムを実施し、館内カフェ・売店ではちみつを期間限定で販売しています。



谷津バラ園は春の見頃は5月中旬～6月中旬、秋の見頃は10月中旬～11月上旬。干潟のお散歩途中に立ち寄りてみては。



チュウシャクシギ



東側の遊歩道は観察デッキやベンチがのんびり野鳥観察を楽しめます。



遊歩道から見る夕陽の美しさは思わず足をとめてしまうほど。水面に映る夕陽と鳥たちの優美な姿に心が癒されます。4月下旬～5月上旬頃、夕暮れ時にチュウシャクシギのねぐら入りも観察できます。



淡水池につながる小川は早春の頃、アズマヒキガエルが卵を産みかえります。暖かくなると岩のすき間にひそむクロベンケイガニが活発になります。



アズマヒキガエル

## Café Oasis

Café Oasis は淡水池のほとりにあるカフェです。営業時間：10時～16時(ラストオーダー 15時30分)



ミートボールのポロネーゼ



牛肉を煮込んだ温野菜カレー



谷津干潟ラーメン



谷津干潟の焼きおにぎりセット



谷津干潟公園のはちみつ(期間限定)



ショコラバンケーキ



カフェの双眼鏡で観察も楽しめます。



ストロベリーアイスクリーム



コーヒーフロート



## 売店 ちどり屋

販売時間：9時～16時30分  
観察センターオリジナル商品、野鳥や動物に関連するグッズや書籍、双眼鏡、工作セット、子どもたちが喜ぶお菓子など、さまざまな商品を取りそろえています。

